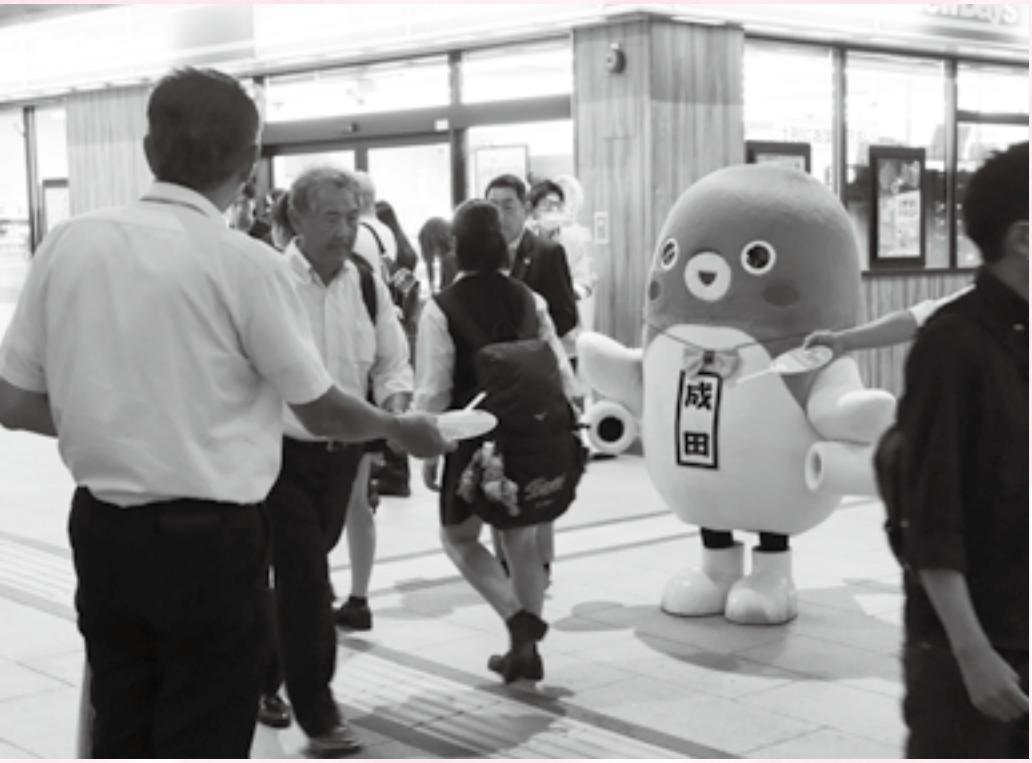
なりたオレンジプロジェクト

認知症への理解を広め支え合うまちに

毎年9月は「世界アルツハイマー月間」、9月21日は「世界アルツハイマーデー」です。市では、この期間に「なりたオレンジプロジェクト」を実施し、認知症に関する啓発に取り組みます。



JR成田駅前で啓発物を配布

認知症を理解して地域共生社会を実現

市では、健康寿命を延ばすための施策を推進すると同時に、認知症になっても住み慣れた地域で安心して日常生活を過ごすことのできるまち「地域共生社会」の実現に向けて、次のような取り組みを行っています。

なりたオレンジプロジェクト

世界アルツハイマー月間に合わせて、認知症に関する啓発活動を行う「なりたオレンジプロジェクト」を実施します。期間中は、市内事業者や空港関連企業、成田市認知症家族の会(オアシスの会)などと協働して、認知症への理解を広く呼び掛けます。

市では、市役所1階に啓発コーナーを設置するほか、職員が認知症の人を支援するための象徴的な色であるオレンジ色を身に着けて、啓発活動を行います。

また、認知症に関する講座や講演会のほか、認知症VR体験会を開催します。

さらに、9月14日(土)・15日(日)に開催する「成田伝統芸能まつり秋の陣」では、健康測定や認知症に関する相談などができるブースを出展します。なりたオレンジプロジェクトの詳細は市ホームページで確認できます。

市ホームページ

そのほかの取り組み

介護予防教室「人生カッコよくプロジェクト」

認知症をはじめ、フレイル(虚弱)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)を予防する、認知症専門医の監修による総合的なプログラムです。エクササイズやタブレット端末を使った脳トレのほか、美術などの創作活動といった幅広い内容を行います。

認知症サポーター養成講座

認知症に対する正しい知識と理解を広げるための講座です。

対象は小学生から高齢者までで、企業や団体向けにも開催しています。

また、受講者には、認知症サポーターの証として「オレンジリング」を交付します。

「麒麟(きりん)模様の馬を見た」原画展

幻視や睡眠の乱れ、手足の震えといった症状が出るレビー小体型認知症当事者の三橋(みつはし)昭(あきら)さんが見た幻視を自ら描いたイラストの原画展を開催します。

期間＝9月30日(月)まで
会場＝市役所1階市民ロビー
※くわしくは介護保険課(☎2015・1545)へ。

市役所1階の啓発コーナー